

様式第1号（第2条関係）

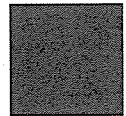
令和 7年 10月 10日

恵那市長

小坂 喬峰 様

（恵那市議会議長経由）

恵那市議会議員 秋山 佳寛



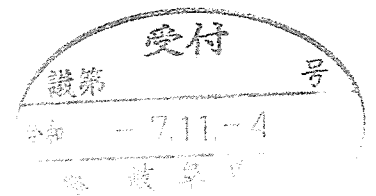
交付請求書

恵那市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、下記のとおり請求します。

記

政務活動費請求金額 30,050 円

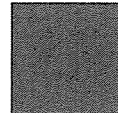
ただし、 令和 7年 4月分～ 令和 7年 9月分



令和 7年10月10日

恵那市議会議長
鶴飼 伸幸 様

恵那市議会議員 秋山 佳寛

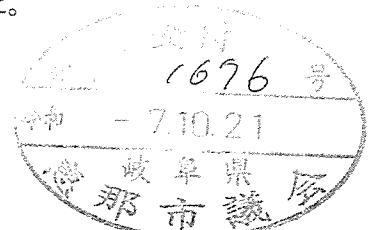


研修視察等報告書

恵那市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和7年8月6日 ～ 令和7年8月8日
- 2 研修視察先 長野県伊那市役所
山梨県都留市役所
栃木県真岡市 真岡鐵道株式会社
茨城県庁 政策企画部
千葉県木更津市役所・ETOWA KISARAZU
- 3 研修視察名 令和7年度 総務文教委員会行政視察
(オブザーバー参加)
- 4 研修視察者 恵那市議会 総務文教委員・オブザーバー
- 5 概 要 長野県伊那市役所 (SMOUT を活用した移住促進について)
山梨県都留市役所 (まなびの未来づくり事業について)
栃木県真岡市 真岡鐵道株式会社 (SL 運行について)
茨城県庁 政策企画部 (茨城県北地域おこし協力隊について)
千葉県木更津市役所・ETOWA KISARAZU
(学校跡地活用事業について)
- 6 効 果 上記概要の事業に、実際に取り組んでおられる担当者のお話は、うまく事が運んだ話ばかりでなく、苦労した点や今後の参考になる部分が多く聴けた、細部にわたって生の声で聴けて参考になった。
詳細は報告書にて記載



総務文教委員会行政視察レポート

日程 令和7年8月6日～8月8日

氏名 秋山 佳寛

視 察 先：長野県伊那市役所

研修テーマ：SMOUTを活用した移住促進について

視察のポイント（SMOUT…民間企業の移住・関係人口促進のためのマッチングサービス）

・視察内容（感じたこと）

このたび訪問した伊那市において、伊那市議会・田畑議長より頂戴した歓迎のご挨拶の中で、特に印象深かったのは、過去20年間にわたり工業団地に45社の企業が進出し、現在では新たな工業団地の整備が求められる状況にあるという事実である。これほどまでに雇用の場が充実していれば、移住者が増加するのも当然の帰結であり、昨年訪れた南箕輪村における移住者の多さにも深く納得がいった。改めて、地域における「働く場」の創出が、人口減少に対する有効な歯止めとなることを実感した。

本日の議題である「SMOUT」を活用した移住促進においても、雇用は極めて重要なファクターであると再認識した。

◆伊那市においては、若年層の進学や都市部への流出、高齢化の進行に対する強い危機感から、国に先駆けて移住促進事業に着手しており、伊那市・箕輪町・南箕輪村の三市町村が連携して「伊那地域定住自立圏」を形成しているとのことである。

面積においても、松本市・長野市に次ぎ県下第三位の広さを誇る伊那市が、今後も企業誘致を着実に進めていけば、より一層の発展が期待される。

現在、伊那市の移住・定住プログラムは第三期に入り、以下のような体系的な施策が展開されている：

【移住・定住施策の構造】

1. 情報発信 : SMOUTの活用、地域の教科書、各地区のホームページによる積極的な広報
2. 移住体験・準備 : 移住体験住宅、仮住戸、準備住宅、田舎暮らし住宅、若者・子育て世帯向け住宅など
3. 受け入れ態勢 : 地域行事への参画促進、空き家バンク、相談会の開催

また、住宅取得支援として「いな住まいる補助金制度」が設けられており、新築・取得に対して最大150万円の補助が提供されている。さらに、宅地分譲補助金として、事業者が開発した宅地1区画につき30万円の支援があるなど、手厚い制度が整備されている。

移住者には地域行事への積極的な参加を促し、「田舎暮らし」の魅力を発信してもらうことで、地域住民との交流を深め、受け入れ体制の強化を図っている。地域おこし協力隊21名のうち大

半がSMOUTを通じて集まったという事実は、情報発信の重要性を如実に物語っている。

短時間の説明では理解しきれないほど多岐にわたる施策が展開されているが、その一つひとつに地域の本気度と未来への強い意志が感じられた。伊那市の取り組みは、地方創生の先進事例として、他地域にとっても大いに参考となるものである。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

地域の移住促進における情報発信ツールとして注目されている「SMOUT」は、平成30年にサービスが開始され、伊那市では令和元年より試験的に導入された。同市における活用の経緯と成果について伺ったところ、特筆すべきは、SMOUTの最大の特徴として「ユーザーと直接つながることができる点」が高く評価されていることである。

伊那市に関心を寄せるユーザーは現在約6,700名にのぼり、こうした潜在的移住希望者に対して直接情報を届けられるという点は、他の媒体にはない大きな利点である。SMOUTは年々機能の拡充が進んでいるものの、現時点ですべての機能を網羅的に活用しているわけではなく、運用面においては選択的な活用がなされているとのことであった。

本来であれば、各施策の効果を定量的に分析し、戦略的な改善を図るべきところではあるが、実際には多岐にわたる施策を同時並行で展開していることもあり、人的リソースの制約から十分な分析には至っていないという。現場の肌感覚としては、SMOUT経由で実際に移住に至った方は全体の約1割程度であり、残りの多くは市の公式ホームページや移住相談会など、他のチャネルを通じて移住を決断していると推察される。

この点は、SMOUTに情報を掲載するだけで即座に移住者が増加するという期待は現実的ではなく、むしろ自治体独自の施策や地域に根差した情報発信の充実が不可欠であることを示唆している。SMOUTはあくまで「つかみ」としての情報発信において非常に有効なツールであり、地域への関心を喚起する入口として機能している。

また、6,700名もの関心層から寄せられる問い合わせに対応することの難しさについても言及があり、情報発信と受け入れ体制の両輪を整える必要性が浮き彫りとなった。

今回の視察の目的であるSMOUTの活用に関しては、全国の自治体が競って情報を掲載している状況にあり、単に掲載するだけでは効果が限定的であることが明らかとなった。したがって、SMOUTを「恵那市を知ってもらうための足掛かり」と位置づけ、その後の段階では独自の情報開示ツールや受け入れ体制を整備することが肝要である。

今後も、伊那市をはじめとする先進的な自治体の取り組みを参考にしながら、恵那市における移住・定住施策のさらなる充実を図っていきたい。

視 察 先：山梨県都留市役所

研修テーマ：まなびの未来づくり事業について

視察のポイント（探求型学習、つるラボ）

・視察内容（感じたこと）

都留市が古くから教育に力を注いできた地域であることは、以前より承知しておりましたが、今回の訪問を通じて、同市が推進する探究型学習の実情をより具体的に理解することができました。恵那高校におけるスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を通じて探究型教育を知っていますが、都留市ではどのようにして小学生に対して探究的な学びを提供しているのかという関心を抱き、今回の視察に行きました。

現地で紹介された二つの事例は、探究型教育の具体的な内容が紹介され、私自身の理解を大いに深めるものでした。振り返れば、我が子が小学生だった頃、学童保育に熱心な指導者が在籍しており、今思えば探究的な学びに通じる活動が自然と行われていたように思います。しかしながら、現在ではこうした取り組みが体系的な教育事業として位置づけられていることに、少なからず驚きを覚えました。

私自身の幼少期を思い返すと、地域には年長の子どもたちが自然とリーダーシップを発揮し、山や川といったフィールドを舞台に、遊びを通じて多くのことを学ぶ機会がありました。夏休みには「自由研究」と称して、自らの疑問や関心を出発点に調査・考察を行い、作品としてまとめるという経験もありました。そうした体験が、探究心や創造力を育む土壌となっていたように思います。

都留市が展開する「つるラボ」の取り組みは、まさに現代社会が求める教育の在り方を体現しており、今後全国的にこうした探究型学習が求められる時代が到来するのではないかという思いを抱きました。

また、毎年親に行っている長島小学校の「夏休み作品展」では、子どもたちが自らの疑問を出発点に、試行錯誤を重ねながら研究成果をまとめた作品が並び、多くの地域の人が子供たちの作品を見る機会があり、子供たちの自己肯定感が芽生えると思う。作品の背後には、困難を乗り越えた努力の跡が垣間見え、教育の本質がそこに宿っているように感じます。

しかしながら、こうした主体的な学びを実践できる子どもが、近年減少しているのではないかという懸念も拭えません。だからこそ、「つるラボ」のような探究型教育の取り組みが、今後ますます重要性を増していくのではないかと感じました。教育の未来を見据える上で、都留市の実践は極めて示唆に富むものであり、今後の教育政策においても大いに参考となるものと確信いたしました。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

今回の都留市視察を通じて得られた知見を、恵那市にどのように反映すべきか という問いに対して、現時点では明確な答えを持ち帰ることはできなかった。探究型教育の先進事例である「つるラボ」の取り組みは非常に示唆に富むものであったが、それを恵那市の教育施策にどのように具体的に落とし込むかについては、なお検討の余地があると感じている。

教育現場に近い方々に意見を伺ったところ、都留市のような探究型学習は、今後の子どもたちの育成において不可欠な要素となっていくのではないかとの見解が示された。一方で、近年では夏休みの作品展を実施しない学校も存在しており、かつて当たり前であった「自ら調べ、まとめ、発表する」という学びの機会が失われつつある現状にも一抹の不安を感じる。

また、かつて子どもたちが自発的に遊びを通じて社会性を育んでいたような場面、たとえば「任天堂：人生ゲーム」のような簡易なボードゲームでさえ、現在ではファシリテーター役の大人がいなければ円滑に進行できない子どもが少なからず存在するという話も耳にした。自らの意思を相手に伝える力が育まれにくくなっている背景には、幼少期からスマートフォンなどのデジタル機器に接する環境の影響もあるのではないかと推察されるが、因果関係についてはなお不明である。

さらに、公教育の枠組みよりもフリースクールの方が望ましいと考える保護者も一定数存在しており、私自身が抱いていたフリースクールへの疑念も、今回の視察を通じてその存在意義を再考する契機となった。多様な教育ニーズに応える柔軟な学びの場として、フリースクールが果たす役割は今後ますます重要性を増す可能性がある。

現時点では、都留市の取り組みを恵那市にどのように具体的に反映させるべきかについて明確な考えを持ち合わせてはいないが、少なくとも「つるラボ」の進め方やその成果については、今後も継続的に注視し、恵那市の教育施策に活かせる要素を丁寧に抽出していく必要があると感じている。

視 察 先：栃木県真岡市 真岡鐵道株式会社

研修テーマ：SL 運行について

視察のポイント（第三セクターによる運営 30 年以上の SL 運行の実績）

・視察内容（感じたこと）

◇真岡市への視察に先立ち、前日より当地に宿泊する機会を得たことで、夜遅い時間ではありましたが街の様子を歩きながら感じ取ることができた。旅の経験が多くない私にとって、こうした街歩きは、言葉では表現しきれないその土地の空気感や雰囲気を感じ取る貴重な体験であり、視察の一環として非常に有意義であったと感じている。

視察当日はあいにくの天候であったが、雨の合間を縫って真岡鐵道の現場を案内いただいた。最初に訪れたのは蒸気機関車（SL）の格納庫であり、そこでご説明いただいたのが、運転および整

備を担当されている内木氏であった。内木様の説明は極めて詳細かつ情熱に満ちたものであり、単なる業務遂行者ではなく、SL に対する深い愛着と使命感を持って日々の業務にあたっていることが強く伝わってきた。

これまで様々な視察を経験してきたが、説明者の姿勢や熱量は千差万別である。内木氏のように対象への深い理解と情熱を持つ方から直接話を伺えることは、視察の価値を一層高めるものであり、私自身も SL ファンとして大いに感銘を受けた。限られた時間の中であったが、より多くの SL に関する話を伺いたいという思いを抱いた。

とはいえ、今回の視察の主目的は、恵那市において SL 運行を検討するにあたり、必要となる施設や運営上の課題を把握することであり、格納庫での滞在時間が視察全体の半分を占めたことは、ある意味でその重要性を物語っている。可能であれば、駅舎に隣接する物販施設なども見学できれば、より包括的な理解に繋がったであろう。

格納庫では、SL 運行に伴う特殊な施設整備や維持管理の困難さについて具体的な説明を受けた。石炭の補給、灰の処理、水質管理、機関車の整備など、いずれも高度な専門性と継続的な熱意が求められる作業であり、内木氏のような情熱ある人材の存在が不可欠であると痛感した。私自身、旧車を 32 年間所有し続けてきた経験からも、こうした古典的機械の維持には並々ならぬ覚悟と情熱が必要であることを理解している。

視察後半では、真岡鐵道の会議室にて意見交換が行われた。印象的だったのは、「SL は町の景色の一部であり、住民の日常に溶け込んでいる」という言葉である。30 年の歴史を持つ鉄道が、地域に根差した存在として定着していることを実感した。

SL 運行に対する地域住民の反応についての質問に対しては、既に長年にわたり運行されていることから、賛否の声が現場に届くことは少ないとの見解が示された。しかし、経営面においては依然として課題が残されていると感じた。格納庫で伺った「かつてもう一台の機関車が売却された」という内木氏の言葉は、経済的な判断が運営に影響を及ぼす現実を象徴している。

SL の維持には莫大な費用がかかる一方で、その経済効果を定量的に測定することは困難である。沿線に集まる鉄道ファンが地域に賑わいをもたらしたとしても、鉄道会社の収益に直結するわけではなく、交流人口の増加が経営に反映されるには時間と工夫が必要である。資産価値の算定も容易ではない。

また、内木氏からは「客車の装飾にもこだわりたい」という発言があり、SL の魅力を最大限に引き出すためには、車両の演出にも配慮が必要であることが示唆された。さらに、SL が走ることでドラマのロケ地として活用される事例もあるとのことで、恵那市が推進するロケツーリズムとの親和性も高く、今後の展開において有望な可能性を感じた。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

恵那市が明智鉄道に蒸気機関車（SL）を導入する構想を進めるにあたっては、拙速に着手するのではなく、十分な準備期間を設け、慎重かつ段階的に検討を重ねるべきであると考えます。SL 運行

は単なる観光資源の導入にとどまらず、地域の文化、経済、人的資源に深く関わる事業であり、その実現には多角的な視点と綿密な計画が不可欠である。

まずは、現在 SL を運行している鉄道事業者の実態調査を行い、運営上の課題や成功要因を把握する必要がある。加えて、SL に対する真の愛好者（すなわち特定の地域や団体に関与していない、客観的な視点を持つ外部の鉄道ファン）の意見を丁寧に聴取することが重要である。これは、私自身が中野音頭保存会に深く関わっているがゆえに、保存の必要性を主観的に捉えてしまう傾向があることから、自戒を込めて申し上げたい。

現在、SL ファンはどの程度存在し、彼らが何を求めているのかを把握することは、企画の方向性を定める上で極めて重要である。加えて、現代の消費者はかつてに比べて目が肥えており、サービスの質に対する期待も高まっている。かつて高速道路のサービスエリアで提供されていた食事が質的に課題を抱えていたことを思えば、現在の改善は顧客満足度向上への不断的な努力の賜物である。SL 事業においても、安易な企画では SNS 等で厳しい評価を受ける可能性があり、慎重な設計が求められる。

真岡鐵道、梅小路機関区、SL 山口号など、既に確立された SL 運行事例と比較した際、後発の明智鉄道がそれらに匹敵する魅力を提供できるかは疑問が残る。これらの事業は長年にわたる歴史、莫大な経費、蓄積された経験によって成り立っており、単に模倣するだけでは太刀打ちできない。したがって、明智鉄道ならではの独自性を打ち出す必要がある。真岡鐵道にも梅小路にもない、SL 山口号を凌駕するような新たな価値を創出することが求められる。

このような魅力を構築するためには、十分な準備期間を設け、構想を練り上げる時間が不可欠である。私自身、明智鉄道に SL を走らせることに強い期待を抱いているが、それは成功を前提とした慎重な取り組みがあつてこそ実現可能なものである。

加えて、以下の二点についても深く検討すべきである。

1. 人材の確保と育成

SL 運行には、単なる技術者ではなく、情熱を持って事業に取り組む人材の存在が不可欠である。経営的に不採算部門であっても、その価値を信じて交渉し、維持に尽力できる人材が集まるかどうか成否を分ける。現代の若者は SL に対する関心が薄れつつあり、書店の鉄道コーナーでも蒸気機関車に関する書籍は減少傾向にある。自動車産業においても、旧車ファンは存在するものの、若年層の自家用車離れが進み、旧車文化は「オワコン」と揶揄されることもある。私自身、旧車・アマチュア無線・ボウリング・中野音頭といった趣味に情熱を注いできたが、いずれも関心層の減少により維持・発展に苦勞している。SL 事業も同様に、熱意ある人材の確保は極めて困難であり、継続的な支援体制が必要である。

2. 集客戦略とロケツーリズムの活用

SL 運行は乗車料金収入のみならず、地域の活性化や交流人口の増加といった波及効果が期待される。映画やドラマのロケ地としての活用も可能であり、ロケツーリズムとの連携は有望な戦略である。明智鉄道は名古屋からのアクセスが良好であり、都市圏からの誘客に向けたアプローチも検討すべきである。リニア新幹線との対比や、SL が走る風景の魅力を最大限に活かす演出も重要

である。梅小路機関区では新幹線と SL の共演が可能であったが、話題性には限界があり、さらなる工夫が求められる。

また、SL の魅力は機関車だけでなく、客車の快適性や演出にも左右される。私自身、「長良川鉄道」や「えちごトキめき鉄道」の豪華な客車に乗車した経験から、乗り鉄にとって快適な空間は大きな魅力であると実感している。梅小路機関区にも訪れたことがあり、鉄道の機構や線路の仕組みに興味を持つ者にとっては、見どころが多く、心に残る体験となる。

最終的に目指すべきは、「行ってよかった」「また訪れたい」と来訪者の心に深く刻まれる体験を提供することである。そのためには、誇りを持って紹介できる魅力あるコンテンツの創出が不可欠であり、今後の課題として真摯に向き合う必要がある。

視 察 先：茨城県庁 政策企画部

研修テーマ：茨城県北地域おこし協力隊について（KENPOKU PROJECT E）

視察のポイント（KENPOKU PROJECT E … 企業・複業型）

・視察内容（感じたこと）

◇このたび茨城県庁を訪問し、県政の最前線に触れる貴重な機会を得た。まず驚かされたのは、壮麗な庁舎と格式ある会議室の佇まいであり、県政の重みと品格を象徴する空間であった。

冒頭では、茨城県議会事務局長・小野瀬氏よりご挨拶を賜った。氏は県北地域のご出身であり、当地における人口減少に対する強い危機感を抱いておられることが語られた。県北とは、日立市・高萩市・北茨城市・大子町・常陸大宮市・常陸太田市の 6 市町を指す呼称であり、同地域では高齢化・少子化・人口流出といった課題が顕著に表れているという。

こうした状況を受け、茨城県では令和 6 年度に「チャレンジプラン NEXT」を策定し、県北振興を県政の最重要課題として位置づけている。プランの柱として掲げられているのは、①にぎわいづくり、②仕事づくり、③人づくりの三本であり、今回の視察目的である地域おこし協力隊の導入は、③人づくりに位置づけられ、他の柱①②にも波及効果をもたらすことが期待されている。

協力隊の目的は単なる起業支援にとどまらず、県北地域の課題解決や地域資源の活用を視野に入れた新たなビジネスへの挑戦を促すものである。具体的には、以下のような理念が掲げられている。

- 1、自ら目標と計画を立て、主体的に行動すること
- 2、地域社会の規範を尊重し、誠実に活動すること
- 3、地域に溶け込み、持続可能なビジネスを 3 年を目途に構築すること。

隊員の選考は書類審査および面接によって厳正に行われ、合格率は 20～30% と高い競争率を誇る。この点からも、県の本気度が強く感じられた。現在、23 名の隊員が活動中であり、そのうち 15 名が起業を実現。任期満了等で退任した 19 名のうち 15 名が県北地域に定住し、事業を継続しているという成果は、制度の有効性を如実に物語っている。

支援体制も極めて充実しており、以下のような支援が提供されている。

- ① 活動月数に応じた報償費および活動経費の支給
- ② 地域ビジネスに精通したコーディネーターによる伴走支援
- ③ 自治体や関係機関とのネットワーク構築支援
- ④ 広報活動やイベント出展に対する支援

これらの支援は、地域に根差した事業を展開する上で極めて有益であり、制度設計の緻密さと実効性に感心した。

募集に関しては、公式ホームページや各種 SNS、広告媒体による広報が行われているが、口コミによる応募も多いとのことであり、地域に根差した信頼と共感が広がっていることがうかがえた。

厳選された人材を迎え入れ、手厚い支援体制のもとで地域課題に挑むこのプロジェクトは、都道府県レベルの施策としても屈指の先進事例であると感じた。今後は、企画提供側の視点に加え、支援を受ける側の声にも耳を傾けることで、より深い理解と実践的な知見を得たいと考えている。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

全国各地で地域振興に向けた様々な取り組みが展開されている中、今回茨城県北部において拝聴した施策は、行政の本気度が随所に感じられる極めて優れた事例であった。特に、県が主導する施策の中でもトップレベルの完成度と熱意が感じられ、施策に対する自信と誇りが言葉の端々から伝わってきたことは印象深い。

このような先進的な取り組みは、今後恵那市において同様の施策を検討・展開する際に、極めて有益な参考事例となると確信している。可能であれば、プロジェクトに実際に参画し、支援を受けている方々の生の声を伺うことで、より実践的かつ具体的な知見を得て、恵那市の施策に反映させたいと考えている。

もともと、茨城県北部は関東圏に位置し、恵那市は中部圏に属するため、地域特性や社会的背景の違いから、単純な横展開が難しい側面もある。しかしながら、地域おこし協力隊という制度に本格的に取り組むにあたっては、今回のような短時間の視察にとどまらず、2～3 日間程度の時間を確保し、現地にじっくりと滞在しながら、施策の本質に触れる機会を設けることが望ましいと感じた。

特に印象に残ったのは、訪問者の質問に対する地域担当者の回答である。「起業の成功」だけを目標とするのではなく、「地域にインパクトを与える」という高次の目的を掲げている点に深い感銘を受けた。仮に起業者が地域を離れることがあったとしても、その活動の軌跡が新たな産業の萌芽として地域に「爪痕」を残すことが重要であるという考え方は、極めて示唆に富んでいる。このような施策は非常に奥深く、実際に関わっている方々が現地を訪れることで、より多くの具体的なかつ本質的な問いが生まれるはずである。短時間の訪問では到底把握しきれない施策の細部に触れるためにも、今後は恵那市の現場関係者が直接足を運び、先方の知見を丁寧に聴取する機会を設けるべきであると考えている。

この視察を通じて得られた学びを、恵那市の地域振興施策に活かし、より持続可能で地域に根差した取り組みへと昇華させていきたい。

視 察 先：千葉県木更津市役所・ETOWA KISARAZU

研修テーマ：学校跡地活用事業について

視察のポイント（地域の活性化とコミュニティー機能の維持）

・視察内容（感じたこと）

◇このたび木更津市役所を訪問し、行政担当者より、学校統合に伴い廃校となった富岡小学校の跡地を民間事業者である ETOWA KISARAZU 様に貸与し、グランピング施設として再生された経緯について詳細な説明を賜った後、現地視察の機会を得た。

本事業は、公募型プロポーザル方式により 2 社の応募の中から選定されたものであり、地元に残す形で公民館的な活用を行う案も検討されたが、維持管理費の負担が課題となったため、賃貸契約による民間活用という方針が採られたとのことである。契約終了後には土地は市に返還されるが、建物については特段の取り決めはないとの説明を受けた。

こうした背景を踏まえ、現地の建物がどのように活用されているのかを確認すべく視察を行った。まず目に入ったのは、かつての学校の面影を残すプールであり、これは事前の想像通りであった。しかし玄関をくぐると、空調が整い、内装は想像を遥かに超える清潔感と洗練された空間に驚かされた。間取りは学校の構造を踏襲しているものの、視点を変えれば公民館のような親しみやすさも感じられた。

最初に案内された広々としたラウンジスペースには、黒板や予鈴チャイムの時計などが残されており、かつて職員室であったことが容易に想像できた。担当者の丁寧なご説明を受けながら施設内を巡るうちに、グランピング施設としての魅力が徐々に明らかとなった。

都心から約 1 時間という好立地にあり、宿泊費に飲食費を含む豪華客船のような滞在スタイルも選択可能とのことで、気兼ねなく滞在できる環境が整えられている。夜遅くまで語らいを楽しめるという点も、非日常の体験を求める利用者にとって大きな魅力である。

かつて校庭であった場所には、小さなコテージが点在し、その中央にはバーベキュー施設が設けられている。自然と調和した空間の中で、ゆったりとした時間を過ごすことができる設計となっており、機会があればぜひ宿泊してみたいと感じた。

今回の視察を通じて、廃校施設の利活用における行政と民間の連携の好例を目の当たりにし、非常に有意義な学びを得ることができた。地域資源の新たな価値創出に向けた取り組みとして、今後の参考にさせていただきたい。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

◇今回、木更津市にて富岡小学校跡地の利活用事例を視察し、廃校施設が持つ潜在的な価値と、それを引き出す行政と民間の連携の在り方に深い感銘を受けた。特に、単なる施設の維持ではなく、民間事業者による発展的な活用によって「自ら稼げる建物」として再生された点は、廃校利活用の新たな可能性を示す好例である。

恵那市においても、同様に廃校施設の利活用が検討されており、地域の公民館的な用途も一案として挙げられるが、維持管理費の負担が課題となることは避けられない。その点、富岡小学校のように民間事業者による収益性のある活用が実現すれば、財政的な懸念を払拭しつつ、地域に新たな価値を創出することが可能となる。ただし、これは事業の成功が前提となるため、慎重かつ柔軟な検討が求められる。

恵那市は名古屋から約 1 時間という好立地にあり、既に根の上高原にはグランピング施設が存在することから、同様の業態を重ねることには限界もある。とはいえ、廃校施設の特徴を活かした多様な活用方法は十分に考えられる。たとえば、合宿施設としての再生、体育館の広さを活かしたケータリング対応の宴会場（ただし需要の観点から再検討の余地あり）、さらには車愛好家の交流拠点としてのオフ会場など、地域資源とニーズを掛け合わせた創造的な活用が期待される。

現時点では明確な活用案が浮かばない部分もあるが、木更津市のように公募型プロポーザルを実施することで、柔軟な発想を持つ事業者との出会いが生まれる可能性は高い。行政が一定の方向性と条件を示しつつ、民間の創意工夫を引き出す仕組みを構築することが、地域にとって最も有益な利活用へとつながるだろう。

今後、恵那市においても木更津市の先進事例を参考にしながら、地域特性を踏まえた柔軟かつ持続可能な廃校利活用の在り方を模索していきたい。

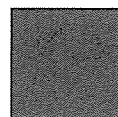
様式第4号(手引き第4章関係)

(本人作成書類)

7年 7月 25日

恵那市議会議長
鵜飼 伸幸 様

恵那市議会議員 秋山 佳寛

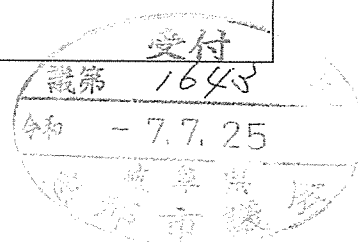


研修・視察等届出書

恵那市議会政務活動費運用の手引きの規定により、研修・視察等届出書を提出します。

記

日程	7年8月6日 ～ 7年8月8日
出張者	秋山 佳寛
用務地	長野県伊那市役所 山梨県都留市役所 栃木県真岡市 真岡鐵道株式会社 茨城県庁 政策企画部 千葉県木更津市役所・ETOWA KISARAZU
用務内容	長野県伊那市役所 (SMOUT を活用した移住促進について) 山梨県都留市役所 (まなびの未来づくり事業について) 栃木県真岡市 真岡鐵道株式会社 (SL 運行について) 茨城県庁 政策企画部 (茨城県北地域おこし協力隊について) 千葉県木更津市役所・ETOWA KISARAZU (学校跡地活用事業について)

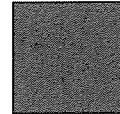


様式第4号（第4条関係）

令和 7年10月10日

恵那市議会議長
鵜飼 伸幸 様

恵那市議会議員 秋山 佳寛



研修視察等報告書

恵那市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり報告します。

記

- 1 期 間 令和7年7月29日 ～ 令和7年7月31日
- 2 研修視察先 奈良県五條市 五條市グリーン・オアシス
奈良県桜井市役所
京都府京丹波町役場庁舎
兵庫県丹波市役所 （株式会社 まちづくり柏原）
- 3 研修視察名 令和7年度 経済建設委員会行政視察
（オブザーバー参加）
- 4 研修視察者 恵那市議会 経済建設委員・オブザーバー
- 5 概 要 奈良県五條市（し尿処理施設の処理方式など）
奈良県桜井市役所（中心市街地の活性化）
京都府京丹波町役場庁舎
（公共施設建設における地域産材活用事例視察）
兵庫県丹波市役所 （株式会社 まちづくり柏原）
（空き店舗対策について）
- 6 効 果 上記概要の事業に、実際に取り組んでおられる担当者のお話は、うまく事が運んだ話ばかりでなく、苦労した点や今後の参考になる部分が多く聴けた、細部にわたって生の声で聴けて参考になった。
詳細は報告書にて記載

経済建設委員会行政視察レポート

令和7年7月29日～7月31日

氏名 秋山 佳寛

視 察 先：奈良県五條市 五條市グリーン・オアシス

研修テーマ：し尿処理施設の視察 （し尿処理施設の処理方式など）

・視察内容（感じたこと）

今回訪問した、五條市グリーン・オアシスを初めて見て私が感じたことは、一昨年訪問した石川県白山市 松任中央浄化センターを思い出しました、その時の研修テーマは：し尿・浄化槽・集落排水汚泥処理の3市1町による広域化・共同化という事でしたので、テーマの本題とは少し違います。

今回のテーマは、「施設のし尿処理方法」という事です。

バスを降りて周りを見回しても綺麗な環境で「し尿処理施設という一般的に地域住民から嫌われるような嫌悪施設」という感じはなかった。私は、このような施設訪問の数が少ないのですが何処の市もこのような所に気を使っているのだと改めて感心しました。近くには一般の住宅も建っていました。

参加者から事前に 20 項目ほどにわたる質問が準備されていました。「導入のきっかけ・一日の最大処理能力・建設時に設置地域との協議での苦勞された点など・年間処理コスト・運営は直営か、委託か等 その他の多くの質問に対して丁寧に書面での回答を頂きました。

今回 私が一番、興味を持ったのが処理後の汚泥などの残渣物から助燃剤・リンなどを回収して利用するという事でした。恵那市もゴミから燃焼材を取り出しています。SDGs の観点から多少経費が余分にかかっても再利用に価値がある有意義なことだと思ったからです。

実際に話を伺いこちらから準備した質問に対しての解答は、直ぐ隣には県の施設「吉野川浄化センター」があり下水放流について水質基準が定められていたためにその基準をクリアすることを念頭にこの「し尿処理施設」の更新が計画されたとの回答がありました。ここで分別された脱水汚泥の処理は地元のゴミ焼却場の助燃剤に利用されているのかと思っていましたが、三重中央開発株式会社に処理をお願いしているとのことでした、リンに関しては売却先が見つからないという事でした。その理由は商業利用に供する量のリンが生産できない、生産されたリンの量が少なくて商業ペースに合わないという事らしい、「一部を吉野農業学校が活用の為実験を行っている」という回答を頂きました。説明ではわかったように思いましたが、バスの中で参加者から聞いた話ですが、植物の肥料、三大要素「窒素・リン酸・カリウム」がある、ここでとれる「リン」はそれだけでは肥料には適さないという話を現場で伺ったとのこと、その話を聴き「農業学校で実験に使っている」という意味がようやく分かった。事前学習だけでなく実際に現場に伺い細部まで聞くことが出来ると、現場では困難なことも多くあるのだと解った。このことはどこの現場でもあることですが、一般的な広報誌の記事に紙面の関係上、細部まで載せられないこともあり、乗せると誤解を受ける恐れがありますので、概要説明に

なってしまう事は致し方ないことです。遠くから見ていても本当の事はわからず現場に出向いて良く知ることがとても大切だと改めて行政視察の大切さを痛感した。

ここでは、座学だけではなく施設見学も行っており頂き、実際にリンが出てくるところも見学させていただきました。実際に見るという事はとても多くの情報を頂く良い機会になりました。一年中で一番暑い日だったと思いますが案内してくださった方々に感謝いたします。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

今回、訪問した五條市グリーン・オアシスでの取り組みをすぐに恵那市に導入という事にはならないと思いますが、環境・SDGs面でもこのような取り組みの重要性が問われることになってくると思います。先を見越した取り組みに今から目を向けて時代の流れを読むことは大切だと思います。

恵那市の先進的なごみ処理施設も、日本の未来の為 試行錯誤することもあります。初めからこの方法だけが良いという事はなく日進月歩技術は進んでいます。新しいことにチャレンジしている市町村と本音で語り合いを持ちメリット・デメリットを本音で語り合いたいと思います。今回のような行政視察を契機に担当者同士の交流の場が持てると良いと思います。

視 察 先：奈良県桜井市役所
研修テーマ：中心市街地の活性化

・視察内容（感じたこと）

桜井市役所視察の前日、桜井市に泊まり夜と早朝に近鉄桜井駅周辺を散策した。

桜井市に限ったことではないが、多くの街の駅前にはかつては賑やかであっただろうと思わせる建物が古さを感じさせている。可住地人口密度が恵那市の3倍ほどの街なのでもう少し賑やかでもよいと思っていました、桜井市の散策は夜間・早朝で日中の様子を見ていないので不確実な感じかもしれないがお世辞にも人が多く栄えているような雰囲気ではなかった。

桜井市役所では「まちづくり部 観光まちづくり課」 岡本様

「都市建設部 都市計画課」小山様 幸田様 による説明を受けました。

事前に送っていただいた、54の質問に対して（A4）12ページにわたる丁寧な文章の解答を頂きありがたい思いでした、この説明で視察時間のほとんどを話されましたので理解にはもう少し時間が欲しかった。今回の視察で私が桜井市に期待していたことは、コンパクトシティの足掛かりのヒントを貰えるのではないかという点でした。 事前質問は「恵那市のような非線引き都市計画区域の中山間地域において、貴社のような街づくり会社設立を進める際の助言があればお聞かせください。コンパクトシティへの足掛かりになるのかどうかお聞かせください。」という質問でした。この回答は、「桜井まちづくり株式会社は、市の中心部である桜井駅周辺で活動されている団体ですので、中山間地域でまちづくり会社を設立するという事につきましては知見がございません。また、先ほどご説明させていただきましたように、桜井市は立地適正化計画を策定し、コンパクトシティを進めておりますが、その取り組みとまちづくり会社を設立したことは直接関連しておりませんので、足掛かりになるかどうかはわかりかねます。」という返答でした。

桜井市は奈良県の中心部 周りには歴史遺産も多く訪れる人も多い地域です。交通の便も良く大阪・京都・三重県津市などからもほぼ同じ距離で行ける中心地です。以前は近鉄の商業ビル

があり買い物をする人も多かったと想像される街ですが、近鉄の商業ビルであった場所の役目が変わり今は複合施設で、地域交流・子育て支援・健康づくりなど多目的な機能を備えた市民の拠点になっているそうです。エルト桜井2Fには「まほろばセンター」という多機能交流施設が有るそうです。一度施設見学にも訪れたいと思います。時代とともに変わる街の風景をデザインしていくのはとても難しいものだと感じました。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

訪問した桜井市と恵那市では少し環境が違っていました。街の中心市街地の開発においては学ぶところはあります。私の勝手な想像ですが、日本全国どこでも交通の便が良くなると人は都会に吸い寄せられるのではないのでしょうか？特に若い人は、かつては桜井市にも大きな商業ビルがあったそうですが事業の撤退、今は人を集める文化施設として利用、この地域でも中津川駅前のダイエーのあったビル、今後リニアが出来る頃は、恵那市の人口はもっと減ります。

商業が成り立たなくなって街には商店がなくなる。そのような街にリニアが出来たらいつべんに人を持っていかれるのではないのでしょうか？それまでに、何か恵那市の魅力を考えねばなりません。ほかの街と交流をもってその町の過去からの経緯、今後の予測を見ていきたいと思っています。

視 察 先：京都府京丹波町役場庁舎

研修テーマ：公共施設建設における地域産材活用事例視察

・視察内容（感じたこと）

まず初めに、京丹波町役場庁舎を見て驚きました。素晴らしく綺麗でデザインも素晴らしい。庁舎内に入るとまだ真新しいせいか、木のおいがした。2021年11月に完成したとのこと。

4年前だそうです。京丹波町の面積の83%が森林でスギやヒノキが多いらしい。

京丹波町新庁舎に地元産材が使われた背景は、地域の森林資源を活かしたまちづくりと林業振興を目指す取り組みから始まったそうです。京丹波町ではまず、林業関係者、製材業者、設計者、発注者などが参加する「木材調達検討ワーキング会議」を設置されたらしく、このプロジェクトをコーディネートされたのは、サウンドウッズというNPO法人だという事で木材の伐採から加工までを町内で完結できる体制を構築し、地域経済にも貢献したとのことと使用された木材のうち約96%が町産材という。

新庁舎は木造の議会棟・執務棟とRC造の中央棟で、設計は有限会社香山建築研究所が担当したという。説明をされた担当者は「切って増える森林理念コンセプト」と言われていました。

32億を使って建てられたと言います。庁舎建設にあたり、町民への説明会や意見集約の場も数多く持たれたと思いますが担当者の話では5回という数字を聴きました、中高生も含むとの話もありましたが、実際はもっと多く話し合われたのではないかと思います。

とにかくすごく素晴らしい建物に驚きました。座学の後 庁舎内を案内していただきました。

柱などの構造物は集成材、ボルトで締め付けてあり強度・耐火の事も十分考慮されていると伺いました。集成材の作り方で大半はボルト締めを行っているが一部実験的に接着剤を用いた柱など建物自体で木材使用建物の実験も行っているようでした。説明の途中、地元の業者を多く

使って仕事を進めることを条件にこの建物が完成したと聞いて、素晴らしい取り組みだと感動しました。

地元の人（林業・建設業）も応援していただければ、地域の雇用も生まれ、地域の技術の実験、ショールームとして、地域の憩いの場・地域の誇り、など副産物は多そうです。

議会の議場も魅せて頂きましたが、部屋全体が美術品のようで感動した。

・まとめ（今後の恵那市にどう反映するか）

恵那市も京丹波町のように森林資源に恵まれています。ただ資源は多くあっても切り出しコストや課題はたくさんあるのでしょうか。林業の専門家が今までに考え抜いている問題で簡単には行かないこともわかります。今回訪れた京丹波町ではどのようにその点を解決したのか返うかがう事はできませんでしたが、京丹波町でこのプロジェクトにかかわった人たちに、それぞれのセクションの人たち同士で話を伺うという事をするともっと踏み込んだ話が聴けると思いました。

木材を切り出す人たち、木材を集成材に加工する人たち、建設にかかわった人たちそれぞれが専門家同士聴きたいポイントはあるはずです。そしてこのプロジェクトを街の活性化に導いた人たち。昔、恵那市も中央道が建設されたころ大手の建設会社は地元の企業に仕事をくれていたと聞いています。今の状況は建設に詳しくない私にはわかりませんが、そのようなことが少なくなっているのではないのでしょうか。今回、市庁舎を案内していただいているときに担当者様からうかがった話で印象に残っていることは「建設にあたり地元の事業者を多く使って頂いた」と話されていました。とても心に残る言葉でした。恵那市でも現在 南中学校建設に多くの木材が使われています、私の住む長島町の住民からも「地元の先祖が残してくれた学林の木を使って校舎を建てて欲しい」という声が上がっています。是非、実現してほしいと思います。今回の視察がご縁で京丹波町様から地元産材活用に関するノウハウを頂けたら嬉しいと思います。友好関係を築き相談に乗って頂けるような関係を持てるといいと思います。

視 察 先：兵庫県丹波市役所 （株式会社 まちづくり柏原）
研修テーマ：空き店舗対策について

・視察内容（感じたこと）

恵那市に限らず、日本全国で空き店舗が増えている。

丹波市では空き店舗の活用が上手に出来ているという事でとても興味があった。

丹波市は人口 59,452 人 面積 493.21 km² という事で人口は 1 万人ほど恵那市より多いが面積は恵那市とほぼ同じぐらいで、恵那市に近い街だと感じました。地理的にも内陸部の盆地、大きな都市の京都・大阪・神戸に行くにも一時間半ほどの距離だという事で、名古屋まで一時間で内陸部の盆地という事でこの点も恵那市に似ていると思います。そのような街なので空き店舗活用事例の参考にできると期待します。丹波市では最初、市役所で話を伺ってその後、場所を変えて、実際にまちづくりの実務を行っているTMO「株式会社まちづくり柏原」という施設で説明を受けるというスケジュールでした。

先に伺った市役所では、説明は産業経済部 商工観光課 商工振興係長 本庄ななみ様が主に説明をしてくださいました。事前に用意した36の質問の中で市役所がこたえられる、14の質問に丁寧に紙面で答えて頂きました。行政が支援されている内容の主なものは、

1 空き家利活用促進事業補助金【移住型・開業型】

移住型 16件のうち 9件移住者

開業型 2件のうち 2件移住者 (※ 移住にも一定の効果あり)

2 新規起業家初期投資支援事業補助金(過疎加算・若者加算・女性活躍加算)

(移住定住者に対してデータとしては数値化されていないが一定の効果ありとのこと。)

3 TMO「株式会社まちづくり柏原」への運営補助金を令和2年まで10,000千円を交付

上記の資金援助の他、TMOは第三セクターであるため、株主総会への出席、職員間の情報共有や意見交換を積極的に行い会社の事業の円滑化を推進しておられるそうです。

その他行政がバックアップについておられるという事は、いろんな制度活用や書類作成など面倒を見て頂けるという点では心強いと私は思います。市役所での説明の後市の指定管理施設「たんば黎明館」と言う所にあります、TMO「株式会社まちづくり柏原」に移動して実務を行う社員からお話を伺いました。ここでは、準備していた36の質問のうち実務に関する17の質問に対する説明を受けました。対応して下さった方は、

(株)まちづくり柏原 土田様 菊本様 武田様 3名 で対応いただきました。

3名の話は、実務に関することが中心でTMO設立時に岡林さんという写真屋の社長が尽力された事やその息子さんが代表を務めていたこと、町の有力者が尽力されたこと、顔見知りの地元の人が空き家交渉に尽力されたことなど、地元を愛する人が熱意を持ってまちづくりを行ったという事などイメージの湧きやすい心に残る話をされました。それから、彼らのブレーンには大学の先生など知識を持った人がアドバイザーになり補助金の活用など一緒に考えることがとても大切なことだと感じた、やはりTMOを運営するには地元愛を持った人・地元の人脈と、行政、新しい考え方を持ったアドバイザーなど多くの人のかわりが重要だと感じた。

・まとめ(今後の恵那市にどう反映するか)

恵那市にも空き家はたくさんあり、中心市街地の活性化は今後必要になってきます。恵那市にはビジネスサポートセンターという地元の人が気軽に出入りできる場所もあります。恵那市の人口は4万5千人ほどで、行政マンも地元の人が多く住民との距離感も身近だと思います。大都会に比べて市民の身近に行政があると思います。市民の合意も市民への情報共有も行いやすいのではないのでしょうか？今回訪問した丹波市と恵那市の規模は似ています、このような街での成功事例など参考に、失敗点なども当然あるはずでそのような失敗を参考にさせて頂きながら恵那市の発展のため今後も情報を頂けるようになると良いと思います。今回訪問させて頂きました、

たんば黎明館は歴史的な建物でした。地元の人が大切に守ってきた建物だと思いました、この建物を見た時、岩村や明智、五毛座などの恵那市の建物を思い浮かべました、恵那市でも歴史観光ができるのではないのでしょうか？今後考えていきたいと思っています。

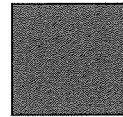
様式第4号(手引き第4章関係)

(本人作成書類)

7年 7 月 25 日

恵那市議会議長
鵜飼 伸幸 様

恵那市議会議員 秋山 佳寛

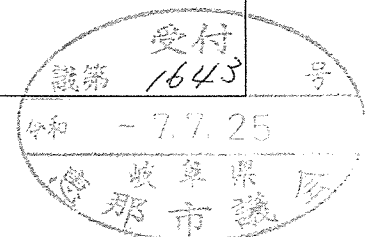


研修・視察等届出書

恵那市議会政務活動費運用の手引きの規定により、研修・視察等届出書を提出します。

記

日程	7年7月29日 ～ 7年7月31日
出張者	秋山 佳寛
用務地	奈良県五條市 五條市グリーン・オアシス 奈良県桜井市役所 京都府京丹波町役場庁舎 兵庫県丹波市役所 (株式会社 まちづくり柏原)
用務内容	奈良県五條市 (し尿処理施設の処理方式など) 奈良県桜井市役所 (中心市街地の活性化) 京都府京丹波町役場庁舎 (公共施設建設における地域産材活用事例視察) 兵庫県丹波市役所 (株式会社 まちづくり柏原) (空き店舗対策について)

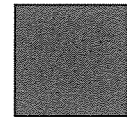


様式第2号（第2条関係）

7年 10月 10日

恵那市議会議長
鵜飼 伸幸 様

恵那市議会議員 秋山 佳寛



収支報告書

恵那市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、
令和7年4月分～令和7年9月分に係る政務活動費収支報告書を提出します。

記

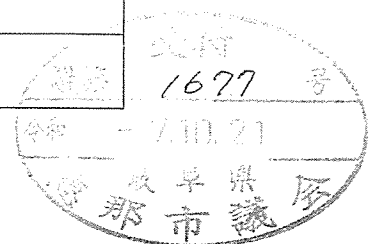
1 収 入

政務活動費 30,050 円

2 支 出

単位：円

項 目	支 出 額	備 考
調 査 研 究 費	30,050	
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
合 計	30,050	



様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	7 年 度	項 目	調査研究費
整 理 番 号	1	議員名	秋山佳寛
支出の按分の状況	(按分の内容) 宿泊代のみ計上		
	(按分率)	(政務活動費充当額) 8, 5 0 0 円	
領収書の補足説明	令和7年度 経済建設委員会行政視察 オブザーバー参加 1日目 宿泊費		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

領 収 書

No. 00008644-00

2025/07/29

登録番号：T9010701012499

秋山佳寛様

金 額	¥ 8,500 -
-----	-----------

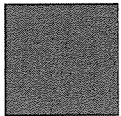
内訳 10%税込 対象合計 8,500 内消費税 772

但し、ご宿泊代
(現金) として、
上記金額正に領収いたしました。

ホテルルートイン桜井駅前

〒633-0091 奈良県桜井市大字桜井1227-5
TEL:0744-44-1817 FAX:0744-44-1818
ルートインジャパン株式会社
作威地：東京都品川区大井1-35-3

印紙税申告納
付につき品川
税務署承認済



--

様式第6号（第5条関係）

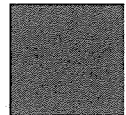
支出伝票

金額 8,500 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7年 10月 10日

恵那市議会議員 秋山 佳寛



1 支出先

ホテルルートイン桜井駅前

2 支出年月日

令和7年 7月 29日

3 支出の項目

調査研究費

4 支出の使途

宿泊代金

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	7 年度	項 目	調査研究費
整 理 番 号	2	議員名	秋山佳寛
支出の按分の状況	(按分の内容) 宿泊代のみ計上		
	(按分率) 総額 7,100 円より 朝食代 1,100 円削除	(政務活動費充当額) 6, 0 0 0 円	
領収書の補足説明	令和 7 年度 経済建設委員会行政視察 オブザーバー参加 2 日目 宿泊費		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

明細書
RECEIPT

舞鶴グランドホテル

〒624-0854 京都府舞鶴市字円満寺124

TEL:0773-76-7777 FAX:0773-76-5184
登録番号：T7130001043607お部屋番号
ROOM No.お名前
NAME

603

秋山 佳寛 様

到 着 日 ARRIVAL		出 発 日 DEPARTURE		人 数 PERSON (S)	発 行 日 ISSUED	備 考 REMARKS	
2025/07/30		2025/07/31		1	2025/07/30		
日付 DATE	お部屋 ROOM	摘 要 DESCRIPTION			料 金 CHARGES	お預り金 CREDITS	残 高 BALANCE
07/30	603	ご宿泊代 6,000x 1			6,000		7,100
	603	ご朝食代 1,100x 1			1,100		

ありがとうございました。またのご利用をお待ち申し上げます。
Thank you for patronage. We look forward to serving you again.領収書
receipt

発行日

2025/07/30 19:35

T 011367801 7
810 000007100

秋山 佳寛 様

¥7,100

収入
印紙

舞鶴グランドホテル

〒624-0854 京都府舞鶴市字円満寺124

TEL:0773-76-7777 FAX:0773-76-5184
登録番号：T7130001043607

様式第6号（第5条関係）

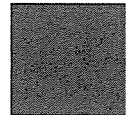
支出伝票

金額 6,000 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7年 10月 10日

恵那市議会議員 秋山 佳寛



1 支出先

舞鶴グランドホテル

2 支出年月日

令和7年 7月 30日

3 支出の項目

調査研究費

4 支出の用途

宿泊代金

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

様式第5号 (第5条関係)

領収書貼付用紙

年 度	7 年 度	項 目	調 査 研 究 費
整 理 番 号	3	議 員 名	秋 山 佳 寛
支 出 の 按 分 の 状 況	(按分の内容) 資料代のみ計上		
	(按分率)	(政務活動費充当額) 5 0 0 円	
領 収 書 の 補 足 説 明	令和7年度 経済建設委員会行政視察 オブザーバ参加 資料代		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

領 収 証 秋 山 佳 寛 様 No. _____

★ ￥ 500 -

但 資料代

7 年 7 月 3 1 日 上記正に領収いたしました 登録番号 T6140001041338

内 訳	税率	金額(税抜・税込)
	%	消費税額等
	税率	金額(税抜・税込)
	%	消費税額等

収 入
印 紙

コクヨ ウケ-1097

〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原688番
株式会社まちづくり柏
代表取締役 土田光

様式第6号（第5条関係）

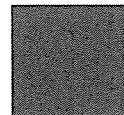
支出伝票

金額 500 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7年 10月 10日

恵那市議会議員 秋山 佳寛



1 支 出 先

株式会社 まちづくり柏原

2 支出年月日

令和7年 7月 31日

3 支出の項目

調査研究費

4 支出の使途

資料代金

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

領収書貼付用紙

年 度	7 年 度	項 目	調 査 研 究 費
整 理 番 号	4	議 員 名	秋 山 佳 寛
支 出 の 按 分 の 状 況	(按分の内容) 宿泊代のみ計上		
	(按分率)	(政務活動費充当額) 7, 9 0 0 円	
領 収 書 の 補 足 説 明	令和7年度 総務文教委員会行政視察 オブザーバー参加 1日目 宿泊費		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

領収書

発行日: 2025/08/06
明細番号: #0027702025080031
発行元: 株式会社デベロッパ
登録番号: T8040001032114

秋山 佳寛 様

¥7,900- (税込)

但し御宿泊代として

上記正に領収いたしました

10%対象税込計(うち税) 7,900 (718)

HOTEL R9 The [REDACTED]
〒321-4369
栃木県真岡市熊倉2
TEL: 0285-81-3467

収入印紙

ご利用明細書

秋山 佳寛 様

ご宿泊期間: 2025/08/06~2025/08/07

備考

ご利用日	部屋名	ご利用明細/支払い方法	単価	数量	ご利用金額	お預り金額
08/06	3	宿泊費	7,900	1	7,900	
現金			7,900	1		7,900

※は軽減税率対象商品

10%対象税込計(うち税)	7,900(718)	ご利用金額 (税込)	¥7,900
		お預り金額	¥7,900
		ご請求金額	¥0

様式第6号（第5条関係）

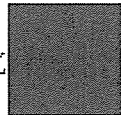
支出伝票

金額 7,900 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7年 10月 10日

恵那市議会議員 秋山 佳寛



1 支出先

HOTEL R9 ヤード真岡

2 支出年月日

令和7年 8月 6日

3 支出の項目

調査研究費

4 支出の使途

宿泊代金

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

様式第5号（第5条関係）

領収書貼付用紙

年 度	7 年 度	項 目	調 査 研 究 費
整 理 番 号	5	議 員 名	秋 山 佳 寛
支 出 の 按 分 の 状 況	(按分の内容) 宿泊代のみ計上		
	(按分率) 総額 8,200 円より 朝食代 1,650 円削除	(政務活動費充当額) 6, 5 5 0 円	
領 収 書 の 補 足 説 明	令和 7 年 度 総務文教委員会行政視察 オブザーバー参加 2 日 目 宿 泊 費		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

領収書

秋山 佳寛様

発行日: 2025/08/07
明細番号: #0021152025080350
発行元: 株式会社ミドルウッド
登録番号: T3-0104-0104-2926

¥8,200- (税込)

但しご宿泊代（ご利用明細書の通り）として

収入印紙

10%対象税込計(うち税)

上記正に領収
8,200 (745)

グランパークホテル
エクセル木更津

25. 8. -8 〒292-0055

領収済

千葉県木更津市朝日1丁目1-40
TEL: 0438-22-4123

ご利用明細書

秋山 佳寛様

ご利用期間: 2025/08/07~2025/08/08

備考

ご利用日	部屋名	ご利用明細/支払い方法	単価	数量	ご利用金額	お預り金額
08/07	421	宿泊費	6,550	1	6,550	
08/07	421	朝食	1,650	1	1,650	
		現金	8,200	1		8,200

※は軽減税率対象商品

10%対象税込計(うち税)

8,200(745)

ご利用金額(税込)

¥8,200

お預り金額

¥8,200

ご請求金額

¥0

様式第6号（第5条関係）

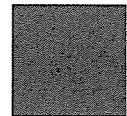
支出伝票

金額 6,550 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7年 10月 10日

恵那市議会議員 秋山 佳寛



1 支出先

グランパークホテル エクセル木更津

2 支出年月日

令和7年 8月 7日

3 支出の項目

調査研究費

4 支出の用途

宿泊代金

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

様式第5号 (第5条関係)

領収書貼付用紙

年 度	7 年度	項 目	調査研究費
整 理 番 号	6	議員名	秋山佳寛
支出の按分の状況	(按分の内容) 保険料2回分 300×2		
	(按分率)	(政務活動費充当額) 600円	
領収書の補足説明	令和7年度 総務文教委員会行政視察 経済建設委員会行政視察 オブザーバー参加 2回分 傷害保険料		
領収書又はこれに準ずる書類 貼付欄			

領 収 証

No 0001966

秋山 佳寛

様

2025 年 9 月 19 日

金額	百万	千	円
		4	600

収 入
印 紙

但し ☐ バス代金として ☐ ツアー代金として
☐ 旅行代金として ☒ その他 (行政視察、傷害保険料)

2回分

上記金額正に領収いたしました

内訳

税率 税抜価格
0 % 消費税額 600

税率 税抜価格
% 消費税額

税率 税抜価格
% 消費税額



株式会社ごとう観光
Goto kanko bus
〒509-7201 岐阜県恵那市大井町 2729-40
TEL 0573-26-1253 FAX 0573-26-1405
URL: http://S10bus.com
登録番号: T7200002023798

取扱者

様式第6号（第5条関係）

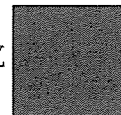
支出伝票

金額 600 円

政務活動費として上記の金額を支出しました。

令和 7年 10月 10日

恵那市議会議員 秋山 佳寛



1 支出先

株式会社 ごとう観光

2 支出年月日

令和7年 9月 19日

3 支出の項目

調査研究費

4 支出の使途

傷害保険料

5 領収書又はこれに準ずる書類を徴しがたい理由

様式第 3 号(手引き第 4 章関係)

(本人作成書類)

令和 7 年度 恵那市議会政務活動費会計帳簿

議員名 秋山 佳寛

(令和 7 年 4 月 1 日 から 令和 7 年 9 月 3 0 日 まで)

単位 (円) 【 1 - 1 】

日付	整理 番号	条例別表 の項目名	摘 要	領収額	政務活動費 充当額	支出可能額 (残)
7 29	1	調査研究費	経済オブザーバー 宿泊	8,500	8,500	111,500
7 30	2	調査研究費	経済オブザーバー 宿泊	6,000	6,000	105,500
7 31	3	調査研究費	経済オブザーバー 資料	500	500	105,000
8 6	4	調査研究費	総務オブザーバー 宿泊	7,900	7,900	97,100
8 7	5	調査研究費	総務オブザーバー 宿泊	6,550	6,550	90,550
9 19	6	調査研究費	上記 2 回分 傷害保険	600	600	89,950
合計				30,050	30,050	89,950

注 この会計帳簿に記載する整理番号及び政務活動費充当額は、領収書貼付用紙の記載した整理番号及び政務活動費充当額と一致する。